

現地検証・学習会

絶滅危惧種多数発見、豊かな清浄な水の確認など

自然豊かな馬尻山を再確認・ぜひ守っていきこう

5月17日、自然豊かな馬尻山の現地検証・学習会を行い、19人が参加しました。

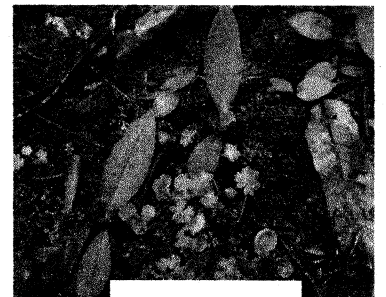
動植物の生態に詳しい武田恵世先生（環境省希少動植物種保全推進員、三重県公共事業環境検討会委員、三重県環境アドバイザー、伊賀市環境保全市民会議レッドデータブック作成委員会委員長）のアドバイスで、多数の絶滅危惧種の植物と鳥を発見しました。植物ではミズハコベ、ホトトギス、ウキゴケ、ノギク、キセルアザミ、キンラン、ギンラン。鳥では、センダイムシクイ、サンショクレイ、キビタケ、ハチクマ、ヤブサメ、ハルゼミ、クマタカ（飛んでいるクマタカを直接見た参加者もありました）。

また、飲料水と農耕に欠かせない貴重な水が、前日が雨だったとはいえ、豊富に流れていたことを確認し、保水力がすごいなあ実感しました。

そして、初夏の馬尻山がすばらしいことを再確認、季節が移り変わっていけば秋もまた、違った姿を見せてくれることだろうと話し合い、クマタカが営巣しているような自然豊かな馬尻山を子どもや孫の世代まで残していかなければならないと感想を出し合いました。



ミズハコベ



ホトトギス



キセルアザミ



キンラン

3月村議会

向井村議が質問・村長が答弁

3月村議会では、向井村議がメガソーラー問題で質問しました。森中村長は「水道は住民の日常生活に直結し、健康を守るために欠かすことのできないものであり、水源保護機能の確保に努めなければならないと考える」と答弁、さらに「開発による森林破壊を防ぎ、自然豊かな森を次世代に引き継げるよう、専門家の意見を聞きながら、周辺の景観や環境に調和した形での指導徹底を行っていききたい」と答弁しました。